



図 3 オカラパ・ミョーウー・ゼディ（仏塔）裏の渡し場。

カンベ駅は 1929 年の地図では Kanbe North と記され、当時の町の中心から北にずれたところに作られたことがわかる。その目的は、近くで操業していたレンガ工場の製品を積み込むためだったと思われる。

カンベの最初のレンガ工場はもっと南にあったが、今では工業省の第一庁舎が建っている。そして「カンベ北」のレンガ工場跡地には第二庁舎のほか、農業灌漑省、森林省、測量局、師範学校なども誘致されている。インヤ湖せき止めによって露出した泥を用いてレンガを焼き、そのあと干拓して「新開地」としたようだ。

ところで「カンベ」の「カン」は、従来「湖・池」を意味する文字で綴られていたが、最近の駅名表示では、「運」を意味する綴りとなっている。おそらく両方とも当て字で、本来は先住民モン族の地名なのだと思うのだが、その語源についてはまだ納得のゆく説明を得ていない。どなたかご教示いただけないだろうか。